

平成 17 年度学術創成研究費中間評価結果

研究課題名	新たな膜輸送機構の分子基盤	研究代表者名	稲垣 暢也
-------	---------------	--------	-------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア．高い
- イ．やや高い
- ウ．やや低い
- エ．低い

コメント：ABC 蛋白質の研究は重要であり、本研究を引き続き推進することが望ましい。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア．予定以上に進展している
- イ．概ね予定どおり進展している
- ウ．やや遅れている
- エ．遅れている

コメント：着実に成果を挙げているが、研究内容がやや分散傾向にあり、今後は焦点を絞ることが必要である。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア．研究経費
- イ．設 備
- ウ．組 織
- エ．そ の 他

コメント：特になし。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア．期待以上の成果をあげている
- イ．概ね期待された成果をあげている
- ウ．期待された成果をあげつつある
- エ．期待された成果はあがっていない

コメント：新たな膜輸送機構はまだ見つかっていないが、今後のブレークスルーに期待する。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア．有機的に連携が保たれている
- イ．あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ．その他

コメント：特になし。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア．効率的・効果的に使用されている
- イ．あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ．その他

コメント：特になし。

[研究課題の総合的な評価]

区分	評価基準	チェック欄
A +	研究の更なる発展が期待でき、より一層の推進を期待する	
A	順調に研究成果を上げつつあり、現行のまま推進すればよい	
B	概ね順調に研究が進んでいるが、今後一層の努力が必要である	
C	現状において研究成果が期待できず、研究経費の減額又は研究の中止が適当である	

[総合的な評価についてのコメント]

コメント：ABC 蛋白質の構造、脂質膜輸送機構の解明は、未だ明らかになされていない部分が多く、本研究がブレークスルーとなることを期待する。今後は、結晶解析、KOマウスを用いた解析といずれも困難を伴う研究が計画されているが、重点事項にフォーカスを絞り、ABC 蛋白質による膜輸送モデルの新たな構築を実現させて欲しい。